

仮名は現在、「あ」から「ん」までの48種類であるが、江戸時代には同じ音をあらわす仮名がたくさんありました。たとえば今の「は」は漢字の「波」のくずれた字形でHa音をあらわしていますが、江戸時代には「者」・「盤」などで同じHaという音を表しました。明治33年(1900)の小学校令施行規則により、現在の仮名に固定されたので、「者」・「盤」の方は「変体仮名」と呼ばれることになりました。

そもそも日本語には、はなしことばやまと言葉(倭語)はありましたが、書きことば(文)はありませんでした。8世紀には漢字に倭語をあてはめて書きことばが創出されていきます。漢字から意味を取り除き表音的に用いて倭語の音をあらわしたのが「万葉仮名」です。たとえば「河泊」は「かわ」という音を表します。万葉仮名が草書化されたものが「草仮名」といわれ、それが平仮名になっていきます。また南都仏教の僧侶が経典の読みを表現するために万葉仮名の「片」すなわち部分を取って省略したものが、片仮名です。万葉仮名は400字以上ありましたから、平仮名・片仮名もたくさんありました。

平仮名は変体仮名は「者」(は)、翻刻の際に「江」(へ、本来は、え)・「茂」(も)・「与」(と)・「而」(て)・「而已」(のみ)といった助詞に一使用されるものを除いて、現行のかなに直すことが多い。ただ江戸時代の史料の世界では、漢字もかなも今より豊かでバラエティーに富んでいたことは忘れないようにしたいものです。

あ (安) 安ああああ

〔阿〕 阿阿阿 (愛) 愛

(悪) 志志

い (以) 以いい (異) 矣

(意) 意 (伊) 伊

(移) 移物物

う (宇) 宇宇字字う

(于) 于于于 (雲) 雲

(乎) 乎乎乎 (羽) 羽

(有) 有有有 (憂) 憂

え (衣) 衣衣衣えええ

〔江〕 江江江江 (得) 得

(要) 要要 (盈) 盈盈

お (於) おおおおお

(墮) 墮

か (可) 可可可のつ

(加) 加かか

(閑) 閑閑閑

(家) 家家家 (我) 我

(駕) 駕駕駕 (哥) 哥

(賀) 賀賀 (佳) 佳

き (支) 支支支

(幾) 幾幾幾幾

(木) 本本 (喜) 喜

(氣) 氣氣 (期) 期

(起) 起起起 (貴) 貴

く (久) 久久久々々

(九) 九九九 (求) 求

(具) 具具具 (俱) 俱 (供) 供

け (介) 介介介介々

(計) 計計計
と共

(遣) 遣遣遣 (稀) 稀

(希) 希希 (氣) 氣
き共

こ (己) 己己己こここ

(古) 古古

(許) 許許

(故) 故故故

(期) 期

さ (左) 左左左さささ

さささ (差) 差

(佐) 佐佐佐佐佐

(散) 散散散

(斜) 斜斜 (狭) 狭

し (志) 志志志 (斯) 斯

(之) 之之々々

(新) 新新 (事) 事 (師) 師

す (寸) 寸寸寸寸寸

(須) 須須須須須

(數) 數數數

(春) 春春春春

(壽) 壽壽

せ (世) 世世世世

(勢) 勢勢 (聲・声) 聲

そ (曾) そそそそそ

うろそ (處) 處

(所) 所所所所 (蘇) 蘇

た (多) たたたた

(太) 太太太

(堂) 堂堂堂

ち (知) 知知知

(地) 地地地

(千) 千千千

つ (川) 川川川川

(徒) 徒徒徒

(都) 都都都

て (天) ててててて

(亭) 亭亭亭